

組織名	公益財団法人 福岡アジア都市研究所
-----	-------------------

1 組織概要

所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前2-8-1 博多区役所10階
TEL	092-710-6431
FAX	092-710-6433
URL	https://www.urc.or.jp
e-mail	info@urc.or.jp
設立	2004年4月1日
設置都市等	福岡県福岡市
代表者	貫正義(会長/福岡経済同友会恒久幹事)

2 組織動向

(1)沿革		
設置経緯	○1988年8月1日:財団法人福岡都市科学研究所設立 ○1992年10月7日:財団法人アジア太平洋センター設立 ○2004年4月1日:両財団統合にて名称変更 ○2012年4月1日:公益財団法人に移行	
見直しの動向	—	
役割(2021年時点)	○都市政策に関する調査研究、知識の普及及び情報の収集、提供、アジア諸都市との研究交流並びにこれらに関連する事業を通じ、地域社会の発展に寄与することを目的とする。 ○この目的のために、主に以下の事業を行う。 ・都市政策に関する調査研究及び情報の収集、提供 ・講演会、研究会の開催等都市政策に関する知識の普及 ・研究誌等の刊行物の発行	
(2) 組織体制		
設置形態(択一)	<input type="checkbox"/> 自治体の内部組織 <input type="checkbox"/> 常設の任意団体(提言等を行う会議体型の団体も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 公益法人(財団法人・社団法人) <input type="checkbox"/> 大学の附置機関 <input type="checkbox"/> 広域連合 <input type="checkbox"/> その他(具体的に:)	
常勤職員数	16人	
うち常勤研究員数	6人	
非常勤研究員数	1人	
専門性確保に関する特徴(複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 専門的な知識を有した研究員の採用 <input checked="" type="checkbox"/> 外部有識者の活用(研究員として採用した者を除く) <input checked="" type="checkbox"/> 大学・非営利活動法人等と連携した研究の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 設置市の企画部署と連携した研究の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 設置市の関係部署と連携した研究の実施 <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) <input type="checkbox"/> 特に行っていない	
庶務体制	研究所内にて行っている。	
市民参加、外部連携	・賛助会員を対象に、会員研究員の受入れを行っている。 ・市民等を対象に、市民まちづくり研究員の受入れを行っている。	
(3)会計		
会計規模※人件費・間接費(オフィス賃借料、水道光熱費等)は含まない		
2022年度予算	15,903 千円	
2021年度決算	19,885 千円	
2020年度決算	20,158 千円	
自治体の内部組織以外の団体の場合の事業活動収入の主な内訳(多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	補助金等収入
	2位	事業収入
	3位	寄付金収入(会費収入)
	4位	負担金収入
自治体の内部組織の場合の事業活動収入の主な内訳(多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	
	2位	
	3位	
	4位	

3 活動動向

(1)活動実績	
定期刊行物	○研究紀要「都市政策研究」(年度1冊発刊) ○福岡市のデータブック「「第3極」の都市 2023」(原則隔年1冊発刊)
(2)活動のマネジメント状況	
ア テーマ決定 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 設置市からの要請 <input checked="" type="checkbox"/> 外部有識者等からの助言・示唆 <input checked="" type="checkbox"/> 貴団体・組織で、設置市の総合計画等に明記された重要課題から選択 <input checked="" type="checkbox"/> 貴団体・組織で自ら発案 <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に:設置市との協議)
イ 情報発信 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 設置市の議員や幹部職員に、報告や提言を行う <input checked="" type="checkbox"/> 設置市の関係部署に、報告や提言を行う <input checked="" type="checkbox"/> 設置市の庁内の広範囲に、成果物を配布する <input checked="" type="checkbox"/> 報告会を実施する <input checked="" type="checkbox"/> 日常的活動を、HP・メールマガジン・ニュースレター等で周知する <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) <input type="checkbox"/> 特に行っていない
ウ 活動の評価とその反映 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 設置市の行政評価制度により評価を受けている <input checked="" type="checkbox"/> 運営委員会等、貴団体・組織の運営に関わる機関から評価を受けている <input checked="" type="checkbox"/> 外部有識者から評価を受けている <input type="checkbox"/> 報告会・アンケート等の機会を設けて、評価を受けている <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) <input type="checkbox"/> 特にそういう機会はない

4 特記事項

研究員の業務分担	研究組織は、調査研究チーム、情報戦略チーム、アジア交流チームに分かれている。
研究員の専門性 育成の手立て	○特別研究員による助言 ○プロジェクト方式による研究 ○アジアの研究者や研究機関相互の交流・連携
研究員のキャリアパス等	○公募制を実施している。 ○過去のキャリアパス例 ・民間大手研究所→当研究所→独立 ・大学院→当研究所→起業 ・民間企業→当研究所→大学教員
その他	

5 2022年度に実施した調査研究

調査研究名	調査研究の概要
ウェルビーイング～新たな都市の評価に関する研究	人々の価値観の転換や多様化等を背景に、求められる都市像が変化中、個々人のニーズや価値観が重視され、経済的・規模的成長から精神的な豊かさが追及されるようになり、「主観的評価」の重要性が高まっている。 そこで、主観的評価を重視する「ウェルビーイング」という概念が、新しい都市の評価において重要な役割を果たすと考え、ウェルビーイングの定義や政策への導入手法について検討するとともに、福岡市に住む・働く人の主観的ウェルビーイングの現状と規定因等を探るためのアンケートを設計し、市民や関係団体にサンプル調査を実施した。 URL: https://urc.or.jp/2022sougou-wb
プラスチックのリサイクルに関する研究	廃プラスチックの分別回収から処理、再商品化までの循環の輪の形成を進めるとともに、市内における最適な廃プラスチック回収方法を模索し、回収・処理・再商品化・販売などに関わる事業者間の連携を促す仕組みの研究を行った。 URL: https://urc.or.jp/wp-content/uploads/2023/04/202303plastic_recycle.pdf
データでみる福岡市のコロナ影響度に関する研究	新型コロナウイルス感染拡大が始まった2020年から、さまざまな対策や順応により、本格的なウイズコロナ社会化が進んだ2022年までの福岡市の変化について、さまざまな統計データから影響度を考察するとともに、コロナ禍前(2019年)と比較した推移のチャート集(統計編:家計調査編)を作成した
ローカル地図製作等による地域の魅力再認識の可能性	東京の谷根千(谷中、根津、千駄木)について、地域の魅力がどのように認識、発信、周知され、域外での認知が高まったのか、地域ブランド形成の過程に着目し、市民が地域の魅力を再認識し、愛着が醸成される方策についての研究を行った。

事業目的に適した効果分析の仕組みづくりの検討	地方自治体におけるEBPM(エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング:証拠に基づく政策立案)を導入する上で当研究所が協力する仕組みづくりを目指し、EBPMの基本概念やプロセスの情報収集等基礎調査を行った。
SDGsと地域活性化	日本4機関と韓国5機関が参加する研究報告会を実施した。